

PTAだより

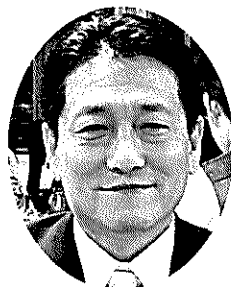
にれ
楳

発行

令和三(二〇二一)年三月一日(月)
北海道札幌北高等学校
定時制課程PTA

年度末に際し

PTA会長 酒井 隆平



昨年2月下旬、卒業式が中止になりました。卒業式を楽しみにしていた先輩方も、とても残念な思いをしたことでしょう。そうとはいえ、定時制では卒業証書を授与できたことを聞き、安堵しました。

新型コロナウイルスは依然として猛威を振るっていますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今年度は、学校行事も多々中止される中、PTA活動も同様皆無となり、生徒の学校生活を参観する機会を設けられなかったことを、とても残念に思います。

幸い、林校長先生のホームページでの発信を頻繁に拝見し、定時制の生徒たちの様子も見ることができ、これからはPTA活動もリモートで拝見できるシステムも必要であると感じています。

新型コロナウイルスは、マスク・手洗い・うがい・体温測定などで感染を防げます。そのうち、学校行事も再開され、学校行事にPTAが参加することも可能になっていくことを願っています。

その日が一日でも早く訪れるよう、「マスク・手洗い・うがい」を、各自・各家庭で行い、健康に過ごされることを願っています。

ネット空間と

リアル空間

学校長 林 正憲



コロナ禍でこれまでの当たり前が変わってしまいました。いつかコロナ以前に戻るかもしれませんが、コロナのしびれとさは樂觀を許しません。多くの本やネットでウイルスのことを知るにつけ、生物の進化、人類の進化とウイルスが切っても切れない深い関係にあることに驚き、コロナが終息しても野生動物から

新たなウイルスが出てくるかもしれないと聞き、恐れます。しかし、驚いたり恐れたりしながら一生を終えるわけにはいかないの、感染予防に努めつつ「それでも私は幸せでいてやる」という気概を持ちながら生きていきたいと思っています。

コロナ対応を戦争のような戦いになぞらえるのは間違いかもしませんが、人間社会に与えた影響はそれに匹敵するのではないのでしょうか。しかも、全世界に関係があります。ドイツの哲学者ヤスパースは「人は限界状況に陥って、真の実存(人としての本来のあり方)に目覚める」と言っていますが、まさに、コロナは私たちに本当に大切なことは何かと問っています。人生にとって本当に大切なことは何か。私たちの生活に必要な不可欠なものは何か。本当に学校は何のためにあるのか。そして、できたことができなくなつたときにどうすればよいのか、会いたいのに会えないとき、どうすればよいのか。簡単に答えが生まれませんし、人によっても違います。同じ人でも、日によって違うと思います。問いに答えるのは大変かもしれませんが、自分の真のあり方へ私たちを開くものかもしれません。そう考えると、これは重要かつ貴重な問いであり、私たちがより充実した人生を送るためのチャンスかもしれないと思えます。

私は、学校は何のためにあるかを考えました。また、人が集まることの意味を考えました。リアル空間に代わるものはネット空間であり、私も今年は特に恩恵

を受けました。オンラインイベントに参加し、全国の人たちと交流し、関係ができました。東京に行き参加料を払わなければならないような講演も聴きました。Zoomで会議を行い、時間とお金の節約になりました。映画も観ました。ライブも視聴しました。しかし、やはり何かが違うと思っています。リアル空間がよい。場の空気感。人と一緒にいることで無意識のうちに感じられるものの効果。言葉にできない何か。肌感覚。私たちは話をしている、言葉やその意味だけではなく目に見えない何かをやりとりし、そこから影響を受けているのではないのでしょうか。

では、その時空の共有ができないとき、どうすればよいのでしょうか。

私は想像力が鍵を握っていると思います。行けない、会えない、集まらない。しかし、想像することはできる。いまここにはないものを見よう、感じようとする。過去の記憶、学んできたこと、体験してきたことを総動員して、想像してみる。そう考えたとき、私はそもそも想像力を十分働かしてきたのだろうかと自問します。目の前にいる人の心を想像していたのだろうか。毎日会う人の身になって考えていたのだろうか。想像力を高めたいです。

これが私の学びであり、どんな経験をして、学びがあれば何とかなります。皆さんにとって、この一年間の学びは何だったか。卒業や進級を前にして、聞いてみたいです。

卒業にあたり

4年A組担任 鈴木 拓

日頃より本校の教育活動に対し、ご理解とご協力をいただきありがとうございます。卒業生を送り出すにあたり、PTA・後援会の皆様にあらためて感謝申し上げます。

今年度、本校を巣立っていく卒業生は、四年生二名、三年生一五名の計二十七名。それぞれの思いと目標を胸にスタートした高校生活も、いよいよゴールです。生徒たちにとって、決して短くはなかった今日の道のり。時に躓きくじけそうにながらも、この学び舎で出会った仲間と、励まし支え合いながら歩んできました。一人ひとりが日々の学びと経験を積み重ね、時折ふとしたことで自己の変化を確認し、気付けば以前は困難だったことが、今では当たり前でできるようになりました。精進者、皆勤者となった者。アルバイトと学校生活を両立させた者。部活動や生徒会活動に打ち込んだ者。失敗から逃げず、そこから学んだ者。自分の将来が描けるようになった者。皆、頑張りました。そして、立派に成長しました。

昨年度末から続くコロナ禍の影響。今年度もそのおわりをまともに受け、生徒たちの学校生活は大きな制約を強いられました。一番思い出作りたいはずの最後の一年で、楽しみにしていた学校行事がほとんど出来ませんでした。その中にもあっても現実を受け止め、感染対策の労を惜みず、耐えながら前向きに学校生活を送る生徒たちの健気で逞しい姿には、何かこちらが教えられるような思いがしました。

先の見えない厳しい社会状況下で、多くの生徒たちが自己の将来を見据え、積極的に進路活動に取り組む、目標を実現できたのは、常にお子様たちを温かく見守ってこられた保護者の皆様のご支援のためものです。卒業を迎えるにあたり保護者の皆様の感慨も一入かと存じます。

最後になりましたが、生徒たちの卒業を心より祝福するとともに、多感で大切な四年間を共有させていただいたことに感謝し、お礼に代えさせていただきます。

今年度を振り返って

生徒指導部長 木太 宏人

『新型コロナウイルス感染症』…すべてはこの単語に集約されてしまうほど、全世界中が振り回され翻弄されました。そして、当然本校の教育活動にも多大な影響を与えました。

ご承知のとおり、4月の入学式、始業式、教科書販売等でほんの三日間登校したところで臨時休業となりました。始業式は初めての全校放送によるものでした。そして、翌日に予定されていた新入生歓迎会の中止に始まり、全ての学校行事と生徒会行事を中止せざるを得なくなりました。

臨時休業は4月14日から5月いっぱいまでの約二か月間続きました。この期間

中は、家庭での学習を強いられ、学校から二回に分けて各教科の課題がまとまって郵送され、一人で課題に取り組む状態が続きました。

そして、やっと迎えた6月1日の学校再開。生徒も教員も久しぶりの再会をして、皆が嬉しくウキウキしていました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、毎日の検温、手指洗浄・消毒、マスクの着用、部活動の制限、ソーシャルディスタンス、三密、換気、健康観察表の提出など、常に「コロナ」に神経を使う学校生活となりました。

学校再開後にはすぐに、H担任との個人面談週間があり、丁寧に一人一人の心情や臨時休業中の生活状況などを聞き取りました。

部活動では、定通体連の全国大会中止を受けて、全ての大会が中止となりました。

2学年で6月26日・27日に予定されていた宿泊研修も、止む無く中止となりました。そして、7月31日まで行事もなく、授業ばかりの学校生活が続き、やっと8月1日から夏季休業になりました。

夏季休業を終えた8月19日から学校が再開し、この日全校生徒が今年度初めて一堂に会した全校集会となりました。8月28日には臨時休業後、全校生徒にとって初の行事『芸術鑑賞』として、ユナイテッドシネマ・札幌で映画鑑賞が実施され、校外での行事に生徒たちの明るい表情が印象的でした。授業以外の行事の必要性を改めて感じたものでした。その後、も間隔を十分に確保した上で、体育館に

て次のとおりの行事を開催することができました。

9月18日には『交通安全教室』が本校体育館で開催され、スタントマンによる交通事故の実演を固唾を飲んで観ました。10月2日・3日に予定されていた学校祭は中止となり、10月14日には『薬物乱用防止講話・防犯講習会』を北警察署の生活安全課の職員より、大麻の危険性についての話をDVDを交えて聴きました。10月21日には『生徒会役員選挙』があり、新生徒会長と副会長が信任されました。10月30日には『ケータイ・スマホ安全教室』、11月27日には『防災学習』で南西沖地震の際に奥尻島で被災し、津波から祖父母の手を引いて高台に避難し、九死に一生を得た体験談を真剣に聴き、一人ひとりが防災について考える日となりました。

当初11月上旬に計画されていた3学年の見学旅行は、1月に延期としたものの、その後旅程地の関東・関西圏での感染拡大により、無念の中止の決断となりました。

12月末に予定されていた体育大会は、どうしても密を避けることができないことと、換気が困難であることからやむを得ず、代替行事として『映画鑑賞』を再びユナイテッドシネマ・札幌で実施することとし、ちょうど国内史上最大のヒットとなった映画が上映中であり、多くの生徒が感動を覚えた行事となりました。1月30日には4学年に対して『救命講習』を実施し、心臓マッサージ(胸骨圧迫)の方法とAEDの使用方法などをD

VＤで学習した後、教員の指導のもとで
ダミーを使用して実際に胸骨圧迫を、一
人ひとりじっくりと実習しました。

以上のよう、行事については、感染
防止に十分配慮して、できる限り実施す
るよう計画立案し、取り組んで参りま
した。しかしながら、生徒が楽しみにし
ていた宿泊研修、見学旅行、学校祭、体
育大会などが中止となり、とても残念な
思いをさせてしまいました。

このようなコロナ禍の一年を、生徒た
ちはとても我慢しながらも、しっかりと
感染予防と感染防止に取り組み、感染者
を出すことなく過ごしたことは、感嘆と
ともに誇れるものです。生徒は実に穩や
かに、落ち着いた学校生活を送っており
ました。日常の様子から安全で安心して
通うことができる学校であると言えます
す。生徒の非行事故も皆無に等しい状況
でした。

ただ一点だけ気がかりなことがありま
す。それは、風邪症状や体調不良の生徒
は、特別欠席として休むように文部科学
省からの通達により、全国の学校で統一
した指導をしており、体調不良や風邪症
状で3～5日欠席するのであれば何も問
題はないのですが、中学校時代に不登校
を経験している生徒が多く在籍している
本校の場合、中学校時の不登校と同様に
なってしまうのではないかと心配
な生徒が何名か見られます。授業を受け
ていない時間が多ければ多いほど、学力
が身につかないことになり、何よ
りもそのまま学校に来られなくなってい
まわれないかと心配でなりません。来年度

もこのコロナ禍は変わらず、学校体制も
大きくは変わらない状況が予測されます
ので、全校生徒が何とか学校に通学でき
るようにと願うばかりです。

進路実現に向けて

進路指導部 山下 亮三郎

昨年末の成績等の発送時に「進路通
信」を同封いたしました。その中で10月
末現在の道内の就職状況をお知らせしま
したが、最新の状況(11月末現在)は次
のようになっています。

●求人倍率3・94倍

(昨年同月4・48倍)

●就職内定率61・7%

(昨年同月78・4%)

男子の就職内定率は65・5%、女子は
57・3%で女子は昨年同月に比べ約20%
下回りました。産業別の求人数について
は、サービス業で278人、飲食店・宿
泊業で234人、卸売・小売業で220
人、製造業で168人の減少となっており、
女子の就職内定率の大幅な減少に影響
していると考えられます。やはり、新
型コロナウィルスの影響と考えられま
す。

令和3年1月14日現在、第3波の感染
拡大により緊急事態宣言が11都府県に出
されました。日本では新型コロナウイルス
のワクチン接種開始を2月下旬までに
という方向で検討されているそうですが、
今後の感染状況や経済状況など心配
されます。今年度の進路状況に関わら

ず、次年度にも影響されると思われるま
す。このような状況の中で、どのように
取り組んでいけば、進路の実現につなが
るのでしょうか。

就職や進学の場合を左右する面接や小
論文等において重要な点が2つありま
す。1つ目は【自己PR】、2つ目は
【志望理由】です。1つ目の【自己P
R】とは、「どのような高校生活を送っ
てきたのか」ということです。具体的に
は、「欠席・遅刻の数が少ないか」、「生
徒会活動や部活動、ボランティア活動等
を行っていたか」、「アルバイト経験が
あるか」、「学校祭などの各行事の取り
組みどうか」、「評定平均はどうか」など
です。これら全てが優秀である必要はあ
りませんが、「充実した高校生活を送る
事ができたか」ということが重要になり
ます。当然、就職に関しては一生懸命部
活動を行っていたとしても、欠席数が多
い場合は採用されません。

2つ目の【志望理由】は、「なぜ、○
○会社に就職したいのか、なぜ△△大学
に進学したいのか。」ということですが、
そのためには、複数の会社の職場見学や
進学希望校のオープンキャンパスに参加
する必要があります。つまり、早い時期
から進路活動に取り組まなければならな
いということです。特に小論文で合格点
をもらうためには、数ヶ月前から取り組
まなければなりません。十分な準備がな
ければ第1希望の進路実現はできません。
現3年生や3年次卒業予定の現2年
生は、次の学年に進級する前には進路に
ついてご家庭で検討しておくのが望まし

いでしょう。よろしくお願いいたしま
す。

令和二年度 進路決定状況

(1月 現在)

【就職内定企業】

㈱渡辺理美容店(2名) 【サービス】
㈱JR貨物・北海道物流【生産工程】
イオン北海道株式会社【販売】
㈱東光ストア【販売】
㈱テックサプライ【運輸・清掃・包装等】

【進学生】

札幌国際大学(人文学部・臨床心理専攻)
光塩学園短期大学 (食物栄養科)
札幌商工会議所付属専門学校
札幌観光フライダル (製菓学科)
北海道立札幌高等技術専門学校(2名)
(建築設備科・電子印刷科)
経専北海道保育専門学校
〇〇〇〇〇〇〇〇〇 保育士・幼稚園教諭コース
日本航空専門学校(国際航空ビジネス科)
専門学校北海道リハビリテーション
大学校(作業療法学科)
北海道芸術デザイン専門学校
インフレーション専攻
専門学校札幌ジュラルーツ(金工学科)
三善会札幌看護専門学校(看護学科)
愛大美容看護専門学校(トリマー科)
パンタニデザイン研究所(各種学校)

各種検定合格者数

(2月5日現在)

実用英語技能検定

3級 2名

日本語ワープロ検定

2級 2名

準2級 3名

3級 13名

情報処理技能検定

2級 1名

準2級 1名

3級 2名

一年間のあゆみ

前期

4月

8日 着任式・始業式

10日 新入生歓迎会

14日 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休校

5月

31日 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休校

6月

24日 生徒総会

26日 防災訓練

7月

20日 前期中間考査

8月

1日 18日 夏季休業

後期

28日 芸術鑑賞(映画)

10日 石狩地区生徒生活体験発表大会

9月

10月

7日

7日

7日

7日

7日

7日

7日

7日

7日

7日

7日

7日

7日

7日

7日

7日

7日

7日

7日

7日

7日

7日

7日

7日

7日

7日

7日

7日

7日



令和2年度 役員

《PTA》

会長 酒井 隆平

副会長 齊藤 光司

副会長 久野 教子

副会長 木村 嘉延(教頭)

庶務 長屋 則子

庶務 木村美奈子

庶務 北山 美香

庶務 中村 恵美

庶務 坂本 望弥

庶務 山下 明美

庶務 五十嵐 望

庶務 杉山 明美

庶務 越村由香利

庶務 今井 雅晴(教諭)

会計 坂井 秀昭(事務長)

庶務 野村 裕子

《後援会》

会長 岡崎 恵治

副会長 高柳実栄子

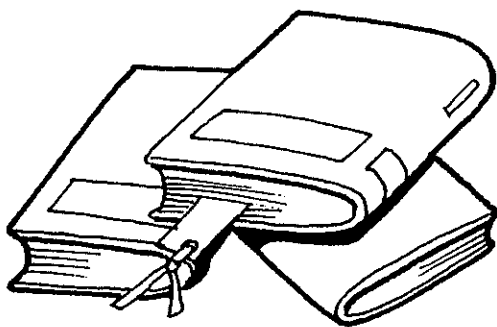
庶務 熊合義枝子

庶務 中谷 嗣美

庶務 今井 雅晴

会計 坂井 秀昭(事務長)

会計 吉澤 聡子



会計監査

役員会

第65回卒業証書授与式

3月

石狩地区教育振興会総会

2月

4月

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため4月から10月の予定していたPTA・後援会の行事が中止になりました。

4月10月

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため4月から10月の予定していたPTA・後援会の行事が中止になりました。